

ひろしま災害後のこころの支援勉強会 令和3年5月30日  
第7回公開セミナー

『繰り返される災害によって  
何が起きているのか』  
～支援者に必要な姿勢や視点とは～

## 子ども達はどう体験しているか どんなサインを出しているか

発表者 湊崎和範  
岡田 緑  
大原一祐

## 子どもの COVID-19 関連健康被害のまとめ

(日本小児科学会 2020.11.11)

\*子どもは多くの場合、家庭で感染しているが、ほとんどの症例は軽症  
しかしCOVID-19流行に伴う社会の変化の中で様々な被害を被っている



## エリクソンの漸成的図式 (横軸に時間軸) (鍾 幹八郎)

8								インテリジェンス 対 絶望
7								ジェネラリティ 対 停滞
6							親密 対 孤立	
5							アイデンティティ 対 アイデンティティ混乱	
4	(早熟の方向)						勤勉 対 劣等感	
3	↑ ↑						自主性 対 罪の意識	
2	↑ ↑						自律 対 恥・疑惑	
1	↑ ↑						信頼 対 不信	
	I. 乳児期	II. 幼児前期	III. 幼児後期	IV. 学童期	V. 青年期	VI. 成人前期	VII. 成人期	VIII. 老年期

## 発達の早熟

(鍾 幹八郎)

- \* 図式の中で、上への空間的移動は、**発達の早熟**
  - ・多くの心理的な無理ないし歪みをもたらす
- \* 困難な状況の中で、心理社会的に自律性（自立性）の危機に早く直面させられ、自立的な行動を身につける
  - ・一見「しっかりした」、人の手を借りずにやれる子どもに見えるが、**早熟的な行動が強制**されている
  - ・早熟は、やがて迎える児童期の仲間関係、思春期の友人関係、異性関係などの課題を著しく困難にしてくる可能性が増大

## こころは関係の世界

(杉原 幹夫)

\* 「子どもは二つのものを見ている。  
一つは母親の瞳であり、もう一つは  
自分を見る母親の瞳である。」 (D.W.ウニコット)

・母親の瞳 = 母親の感情状態  
自分を見る母親の瞳 = 母親から、どう思われているか

・子どもは、かかわるこちら側の感情状態や、  
かかわりの中での雰囲気、  
自分をどのように見ているか(まなざし)、  
自分をどう感じているかに反応している

◎子どもの見せる姿は、「瞳」に反応したもの

## 大人が、したほうが良いこと

\*まず、大人(親や先生)が落ち着くこと  
・そのために、大人が不安だったり落ち着いていない  
ことに気づくこと  
コロナウイルス感染症関連の情報の多くは、不要なものが多い

⇒ 「Grounding ~ 地に足をつけて」  
こころと身体の繋がりを意識して、  
人との繋がりを感じながら、  
地に足をつけて、「今、ここで」を大切にする  
そして、「間」「ゆとり」「あそび」をつくっていく

### ウォルト・ディズニー

私たちの一切の夢は、もしそれを追い求める勇気があるなら、実現しうるのだ

### ヘレン・ケラー

世界は苦難に満ちているけれど、また、その克服にも溢れている

### ヘンリー・フォード

どのような大問題もありはしない  
あるのは、多くの小さな問題だけだ

(一人で) 頑張らない、頑張らないけど、丁寧に!

## 参考資料

- ・『児童分析家の語る 子どものこころの育ち』  
マーサ・ハリス 岩崎学術出版
  - ・「ライフサイクルと家族」 鐘 幹八郎 対談より
  - ・子どもの心をはぐくむ「体験」について考える  
杉原 幹夫 論説より
  - ・『アイデンティティとライフサイクル論』  
鐘 幹八郎 ナカニシ出版
- 他